

# 尚徳

学校便り「尚徳」9月号

第481号

鳥取大学附属小学校

平成24年9月12日

<http://www.fuzoku.tottori-u.ac.jp/~fusho/>

題字「尚徳」は、住川英明教授（地域学部）



自分で確かめることの大切さ

校長 小枝 達也  
夏休みも終わり、元気な子どもたちの声が学校に響き渡っています。水の事故などのニュースを耳にするたびにドキドキしていましたが、無事に元気な顔を見ることができました。

さて、つい先日、韓国のテグ大学で講演をしてきました。子どもの発達に関する日本の学会と韓国の学会の合同ミーティングが開かれ、その記念講演として招かれたからです。竹島をめぐるの両国の応酬が報道されている時期ですので、少々「大丈夫かな？」という気持ちもありました。帰国してから聞いたのですが、家族も私が韓国に行っている間に、日本の政治家が迂闊なことを口走らないようにと祈っていたそうです。実際に韓国に行ってみて、家族の心配をよそに、何事もありませんでした。テグ大学の先生方はとても温かく歓迎してくださり、大学のゲストハウスを兼ねているホテルの最上階で懇親会が開かれ、子どもたちの最近の状況についていろいろな話を伺ってきました。韓国では家庭内暴力や

親子間のトラブルが問題視されているそうです。なので、テグ大学心理リハビリテーション学部の先生は「自分たちは、仏教の教えを元にした心理カウンセリングを行っている。」とのことでした。私は脳の話をしたのですが、これに対して「自分は西洋的な科学は信じていない、仏の心でもって子どもたちを救う。」的な主張をしておられました。「であれば、なぜ私が招かれたのだろうか？」という疑問が頭の中に渦巻いたのですが、ともかく韓国では反日感情の方は渦巻いていることもなく、韓国の人たちは以前と変わらずとても親切で、勉強熱心でした。

本校が春川教育大学校附設初等学校と16年にわたる相互訪問による交流を続けているという話をしましたら、とても驚かれ、また喜んでおられました。こうした草の根の交流を絶やさないことの大切さ、そしてテレビ等のニュースを見て考えるだけでなく、実際に行動を起こし、自分で見聞を広げることの大切さを痛感しました。

## 【春川との交流会】



7月20日・21日に春川教育大学校附設初等学校との交流を行いました。今年で16年目を迎えました。高学年を中心に準備や練習に励んできました。6年生は文化交流会での演技や会の司会進行の練習や交流活動の準備、5年生は学校を飾る掲示物の作成をしました。色別班活動でも歓迎のポスターをつくりました。どの学年の児童も心をこめて絵を描きました。

歓迎会では、互いの学校で使

っている教科書、絵本、遊び道具、児童の絵画作品等を交換しました。文化交流会では、本校は箏や太鼓の演奏、傘踊り、ダンス、春川小は、笛の合奏で「アリラン」、合唱で「トラジ」、扇の舞、サムルノリ(打楽器演奏)とダンスでした。両校とも伝統的なものと現在の流行を取り入れたすばらしい演技でした。

午後は、本校児童と一緒に和紙で葉を作ったり、浴衣を着たり、箏の演奏をしたりして、日本の文化を体験しました。本校の子どもたちは、覚えたての韓国語と英単語を織り交ぜながら、活動の説明や自分の気持ちを伝えようとしていました。春川の子どもたちも、その気持ちに笑顔で返していました。

ホームステイ先では温かいもてなしを受け、素敵な思い出がたくさんできたようです。お別

れの式のと看、春川小児童からホームステイで感激した思いや感想がたくさん聞かれました。



今、政治的な問題で日韓の関係が複雑になっています。こんなときだからこそ、この交流の意味を考え、互いの子どもたちが交わした心を大切にしていきたいものです。来年は、本校が訪韓する予定です。

様々な場面で保護者の皆様にはご協力いただきました。ありがとうございました。

